

## 苫小牧水素エネルギープロジェクト会議の設立について

### 1 背景

水素は、将来の二次エネルギーの中心的役割を担うことが期待されており、平成28年3月には、産学官の有識者で構成される水素・燃料電池戦略協議会において「水素・燃料電池戦略ロードマップ改訂版」が取りまとめられ、新たな目標設定や取組の具体化が行われた。北海道においても、平成28年7月に当面の手立てとスケジュールなどを示した「水素サプライチェーン構築ロードマップ」が策定されたところである。

本市では、平成27年度に「(仮称)苫小牧水素エネルギープロジェクト会議・準備会」の開催等を通じて、水素エネルギーの活用方策の検討や各企業・団体との意見交換等を行っており、現在、地域における水素の利活用等についての可能性調査を実施し、水素エネルギー社会構築に向けた課題や効果等を検証しているところである。

### 2 設立趣旨

本市は、製紙や石油精製、自動車関連産業をはじめとしたものづくり産業の集積地であることに加え、広大な敷地を有する工業団地と苫小牧港をはじめとする物流拠点やエネルギー供給基地としての機能を有しており、水素エネルギーの利用、製造、貯蔵、輸送の面において高い可能性を有している。

こうした苫小牧の優位性を活かし、水素エネルギー社会形成に向けた機運を高めるとともに、水素の利活用やサプライチェーン構築の検討等を行い、新たな産業展開、雇用創出など地域経済活性化に向け、各企業や団体など、産学官が一体となって水素エネルギーを活用した地域づくりを推進するため、苫小牧水素エネルギープロジェクト会議を設立する。